

北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」会報

NO FENCE

vol. 90 2023年1月

〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203

nofenceinfo@gmail.com

<http://nofence.jp/>



北朝鮮、異常なミサイル発射回数、昨年70回 年末年始4回、国内矛盾激化と見るべき

プーチンのウクライナ侵攻は止まず、遂に年を越した。北朝鮮は年末年始に4回もミサイルを発射した。北朝鮮のミサイル発射は異常な回数である。昨年一年で70回に及んだという。国内での食糧難を想えば、北朝鮮内部での矛盾は激化しているとみるべきであろう。厳しい寒さと飢えの中で、お母さんたちは必死で家族を、子供たちの食を工面していることであろう。

昨年の賀状であったか、隣の国が豊かなのに、国民はどうして黙っているのかと、書かれたものがあつた。隣とは中国よりも韓国を意味すると思う。今年の賀状では北朝鮮(の内部)はどうなっているのだろうかという添え書きが眼に付く。封鎖国家であるから、北のことがわからないというのは自然な反応である。しかし私たち NO FENCE の理解はハッキリしている。恐ろしい強制収容所(政治犯収容所)の存在のため、国民は物も言えず、耐えるしかないのだと。とすれば NO FENCE の活動は重要である。強制収容所の存在と実態を国内外の人々に知らせていく活動の重要性である。自信を持ち、しかしこの活動の不十分さも反省しなければならない。

〈人から獣がはい出す戦争〉元旦の新聞のトップに『戦争は女の顔をしていない』の著者アレクシエービッチさんのインタビューが出ていた(朝日新聞)。「人から獣がはい出す戦争」という指摘があつた。プーチンのウクライナ侵攻はまさにそうなのだ。人間らしきものは何も無い。同時に「絶望を救うのは日常そのもの」という指摘があつた。お母さんたち、女性の役割と存在がそれを示す。同時に私は2017年7月ごろに処刑されたと思われる、北朝鮮内部の変革者「最理想」氏のお父さんの息子に対する忠告を読んでみた。

〈父の教え〉 彼が17歳のとき、軍隊入隊2～3か月前のこと。お父さんに呼び出

されて「お前は何歳まで生きられると考えているか」と問われた。そんなこと考えたことはありませんと答えると、今考えて見ろと言われ、70歳位と答えた。自信を持って言えるかと問われて、では65歳までなら自信を持って生きますと答えた。すると父は「今まで良く生きたと思っただきはないか」と言われ、「昨日死ぬ日だったが、今日も一日超過して生きていると考えるようにしなさい」と言われ、「私がなぜまだ若いお前にこんなことをいふかと言え、人は何歳まで必ず生きるといつもそんなことを考えていると、自然に怖いことが増える。計画した日まで生きた人は多くはないので。」という話。「しかし、今寿命を超過して生きていると、大胆になれる。だからいつまでは生きなければという考えは捨てなさい」と仰ったのです(2020年『月刊朝鮮』4月号最終回)。「父は考えていたことの40%は達成できた。成功した人生であったと仰っていました。」(同上)。

「父は有名な功勲俳優であった。小さいころ母に連れられて沢山の俳優さんたちに出会った。」(2019年11月号第5回目)。

2017年7月頃、彼は50歳位で処刑されたと思われる。彼が父の問いかけに答えたのは65歳であった。結果としては15歳も早く生涯を終えねばならなかった。彼が金王朝体制の変革を考え、行動をしたからである。なぜ一昨昨年紹介した「死生決断対話録」の最終回のこのくだりを新年早々のNO FENCE会報に再録するかと言え、北朝鮮内部の変革者たちが置かれている状況が、最理想氏のお父さんの忠告通りであろうからである。編集子(私)は近年賀状で何歳まで生きたいと書いてきた。北朝鮮の変革者と現在の日本の私たちの置かれている状況、日常性が、かくも決定的に違うことに気付いたからである。一日も早く北朝鮮の人々の状況が現在の日本の私たちの状況(これが平和というもの)と同じものにならないとなければならないということだ。彼は15年も早く他界させられた。彼は南北統一後、自転車で南半分をくまなく旅行したいと言っていた。それを果たせないまま彼は逝った。しかし15年を犠牲にして彼はとても重要な北の変革の書写真、北の内部の四階層社会の実態を世界に明かしてくれた。「本当の共産主義は民主主義だ」という貴重な証言を残してくれた。彼は勇気ある人間であった。平和であれば15歳はもっと生きられた、その15歳に変えて「死生決断対話録」を残してくれた。この対話録を忘れてはならない。この対話録を世に広め、彼を15年長生きさせねばならない。新年を迎え、改めて思うことである。NO FENCEの会員諸氏、「死生決断対話録」を探し出し、座右に於いて活用してください。

韓国ビデオ所持・普及者公開処刑の意味—北朝鮮の南認識

ここ数年北朝鮮の韓国認識は急速に進んでいるのではないかと、改めて気付いた。それは韓国の歴史ドラマや音楽グループ BTS 紹介の CD などが市場を介して北朝

鮮社会、特に若者たちの間に広がることを介してであると思う。前回の本会報で紹介した、これらを流布した10代の青少年たちの公開処刑は、北朝鮮当局の凄惨な危機感の現れと見れば、納得がいく。女性の髪形や服装の流行も北側の韓国理解の近年の速さを示している。同じ民族なのであるから同化は早い。北朝鮮内に韓国の情報を入れる風船活動の取り締まりを、先の文在寅政権は法律を作って始めたが、いかに時代錯誤の、親北朝鮮的法律であるかが、ハッキリする。この点も新年の当初に確認しておきたい。

次に2020年11月の当会の会報68号の宋允復氏の貴重な記事を再録しておきたい。この記事も何回も読まれるべきものである。

備忘録 2020.11.7 副代表 宋允復

北朝鮮の強制収容所にゆかりのある人たちの伝手(つて)をたどり聞き取りを重ねる中で、思わぬ歴史的証言に行き当たることがある。

☆ ☆ ☆

北朝鮮の建国に当たって、スターリンはソ連で育成した朝鮮人の各分野の専門家を北朝鮮に送り込んだ。その数100人余。その中の司法・治安担当の方学世(パン・ハクセ)らに若き金日成がリクエストしたという。

「せっかく新たに作るこの国が永く安定するよう法体系を組んでほしい」

「ついてはいくつかの先行事例を十分に研究し参考にしてほしい」

金日成がその先例として挙げたのは、500年続いた李氏朝鮮(肉親をも容赦しない粛清)、日本統治時代の隣組(住民の相互監視密告システム)、ナチスドイツの親衛隊と収容所、だったという。ベースとなるのはもちろんスターリンのソ連だが。

☆ ☆ ☆

耀徳収容所は出身階層に応じていくつもの区域に分かれ、いずれ平壤に戻るが見込まれる幹部たちの村もあった。

そこには金日成の一族に連なる者もいて特別待遇を与えられていた。その者がこう語ったという。

「朝鮮人民はじつに哀れだ。長年金日成に騙されて」

「温かな人民の父であるかのように演技しているが、親族の間ではこんな本音を語っていた」

『民草は、腹が満ち足りて楽に過ごし、カネを持っていると言うことを聞かないものだ』

『だから飢え死にしない程度に食わせて、配給制で管理し、法で処罰しなければならないのだ』

☆ ☆ ☆

収容所体制も大量餓死も淵源をたどれば金日成の本心、本音にあり、その父親の本音をよくよく承知していた息子の金正日により直截にその本心を現実化して見せただけ、ということになるのか。

ここ数年の間にも金日成の初代護衛局長の息子など一級の証言者が世を去っている。

いかに多くが知られることなく散逸してしまったか、時の残酷さを思う。

歴史の証言をしかと形にして留める営為もこのコロナ禍で遂行し続けなければならない戦いである。

韓国統一相「北の人権改善は急務」

ソウルで討論会

記事一覧 2022.12.14 11:49

【ソウル聯合ニュース】韓国統一相は14日、北朝鮮の人権に関する「国際対話」をソウル市内のホテルで主催し、権寧世（クォン・ヨンセ）副部長官は閉会のあいさつで「北の人権の改善は私たちに与えられた、最も急がれる歴史的な課題」と強調した。

権氏は北朝鮮住民が基本的人権すら享有できずにいると指摘。北朝鮮の人権問題は韓国にとって民族、同胞の問題だとしながら、「人権改善への支援は、統一韓国の未来に向けて同じ血筋、統一未来のパートナーであるわれわれが当然果たすべき道理であり義務」と訴えた。韓国軍捕虜と北朝鮮による拉致被害者、南北に生き別れになった離散家族、脱北者とその家族にとっても生存に直結する問題だとした。

潘基文（パン・ギムン）前国連事務総長は祝辞で、尹錫悦（ユン・ソクヨル）政権が北朝鮮の人権問題を重視していることを高く評価した一方、「北の指導部は膨大な国家資源を投じて大量破壊兵器を開発し、そのせいで今食べるものもない住民とその人権を投げ出した」と批判した。

この日の国際対話は北朝鮮の人権問題の主要争点と今後の課題をテーマとする。米国のロバート・キング元北朝鮮人権担当特使や米シンクタンク・戦略国際問題研究所（CSIS）のビクター・チャ副所長、国連人権高等弁務官事務所（OHCHR）ソウル事務所のジェームズ・ヒーナン所長らがパネリストとして参加した。

以上はソウルの聯合ニュースの報道であるが、同じ討論会に関して「自由アジア放送」(rfa)の報道では、アメリカの戦略国際問題研究所のビクター・チャー氏は、北の非核化と人権の問題は、ゼロサムゲームではなく、北朝鮮の人権問題は、北朝鮮の問題の最重要課題であることを強調した。韓国の2代目の北朝鮮人権国際協力大使、李信和氏(女性)も北朝鮮の人権問題は普遍的な問題であり、政治状況によって左右されていい問題ではないことを力説したという。また北韓人権市民連合のヨアンナ・ホサニヤック副局長は、韓国の青少年たちは自国民が北朝鮮に拉致されている事実も知らないと指摘し、教科書に明記して知らせていく必要があると主張したという。

国連総会、12月15日北朝鮮の人権侵害非難決議採択

18年連続、韓国共同提案国に4年ぶりに復帰。

決議案はEUが作成。日本は復帰せず。63か国が共同提案国。満場一致は18年連続。決議は国連安保理に、北朝鮮の人権侵害を国際刑事裁判所（ICC）に付託し、「最も責任あるとみられる者」への追加制裁を考慮するよう勧告。これは9年連続。

北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」会報

NO FENCE

vol. 91 2023年2月

〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203

nofenceinfo@gmail.com

http://nofence.jp/

北朝鮮帰国事業裁判3月3日高裁公判のご案内

本誌でも帰国事判の地裁判決(昨年3月23日)を報道しました(会報81号)。その高裁での公判が来る3月3日(金)午前10時半から東京高裁1階101号法廷で開かれます。約1時間位と予想。高裁での公判は1回で終わる可能性があります。当日の90席の傍聴席を満杯にすべく、NO FENCEにも協力要請が来ています。ヒューマン・ライツ・ウォッチの土井香苗代表が用意してくれた傍聴希望者用の登録フォームはこちらです。

<https://forms.gle/NENragVWbP4nSHVj9>

参加ご希望の方は、各自早めにご登録下さい。

今回のNO FENCE会報は今までで一番短い2頁ですが、帰国事業を考える重要な資料を2種、同封します。

「北朝鮮の真実を語る一九八五年に日本に届いた奇跡の手紙」(田中仙之助の長男けんじさんの手紙。2019年9月会員)

「ひどい詐欺劇の犠牲になった北朝鮮帰国在日朝鮮人」(姜哲煥)(Keys2003年春第3号日本語版)

「平壤文化語保護法」北朝鮮1月18日採択

朝日新聞の報道によれば、朝鮮中央通信は1月19日、「非規範的な言語要素を排撃する」ため「平壤文化語保護法」を最高人民会議で採択したと報じた。「文化語」は北朝鮮の標準語を指す。「北朝鮮では最近、ひそかに入手した韓国のドラマをみるなどして若者らに韓国風の言葉遣いが広まっているとされ、韓国文化の「排撃」を強めるとみられる。」と朝日は報道した。

脱北民女性30人の証言が近く出版されます！

その本の情報は以下の通りです。

書名：『彼女たちの北朝鮮(DPRK)～脱北民30人の胸走る記憶～』

編訳者：高島淑郎・松田由紀・芳賀恵・桑原修

出版社：寿郎社

価格：3600円＋税(3960円)

発行：2023年3月1日(書店では3月3日以降)

ページ数：587頁

韓国のペナTVの脱北民ロングインタビューを、札幌在住の当会会員高島淑郎氏たちが「北朝鮮翻訳会」を作り、翻訳作業を続けていることは本誌でもお知らせしています。3年前の当会総会で高島氏に講演をしてもらいました(本誌59号参照)。昨年末高島氏らが『北朝鮮脱北女性30人の証言』という証言集を札幌の出版社から出版するという話をご本人から聞いていました。遂にその本が上記のような書名で刊行されることになり、ここにご案内する次第です。その高島氏が3月11日～12日に東京に来られるということを知りましたので、以下のような会を持つことにしました。生憎これはという会場がふさがっており、私(小川)が責任者となっている朝鮮文化講座が会場として使わせてもらっている早稲田奉仕園(高田馬場駅から30分。下記地図参照)で集会室(20名規模)が予約できましたので、小規模ですが高島氏から本書の内容と刊行の意義について以下の要領でお話を聞くことにしました。

本証言集の翻訳と刊行の意義—高島淑郎氏講演会

日時 3月12日(日)午前11時～正午半

会場 早稲田奉仕園101集会室(参加費千円)

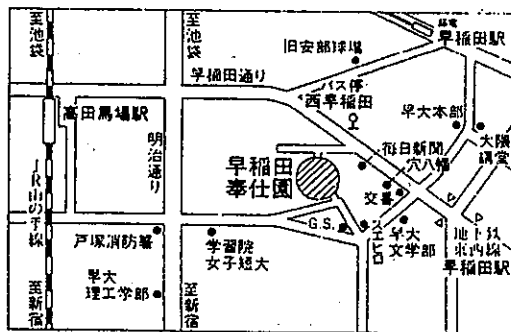
電話 03-3205-5411

(緊急ニュース) 2023. 2. 15 曜時 4. 00.

清水ハン栄治さん、バリ島で2月14日

True North を上映し、討論

沢井健二さん、ネットで紹介



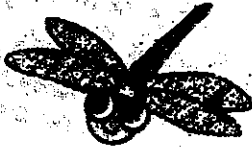
- ◆ JR高田馬場駅より都バス早大正門前西早稲田下車3分
- ◆ 地下鉄東西線早稲田下車8分

北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」会報

NO FENCE

vol. 92 2023年4月

〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203
nofenceinfo@gmail.com
<http://nofence.jp/>



高政美(千葉優美子)さん、ご逝去(2023. 2. 6)

去る3月3日帰国事業裁判の東京高裁初公判で、原告が5人から4人変わったことが明らかになりました。原告の一人、高政美さんが2月6日亡くなられたからということでした。謹んで哀悼の意を表します。

2016年2月13日のNOFENCEの証言集会で高政美さんはとても重要な証言をして下さいました。亡くなられたお父さんが、生前北に「政治収容所」があったことを彼女に話してくれたことを明らかにしてくれたことです。高政美さんは3歳の時一家を挙げて北朝鮮に帰国されていますが、お父さんが通訳として働かされます。北に残っていた日本人たちを強制労働させたときの通訳です。このお父さんも後に政治犯として収容所に入れられ死の間際まで行くのですが、知人の朝鮮総連幹部が当局を必死に説得して、釈放され、成長した高政美さんにしみじみと回想された話が当日語られました。当時北朝鮮当局は、我が国には政治犯という言葉は存在しない、因って政治犯収容所も存在しないと真っ赤な嘘をついていましたが、お父さんのこの回想録の話でその嘘がばれました。この時の証言はNO FENCEの会報38号(2016. 2)に載っています。NO FENCEのホームページの「ブックス」に会報が掲載されています。お父さんと高政美さんに感謝を込めて、追悼して下さい。

太永浩氏、韓国政権党の最高委員に当選

北朝鮮の元外交官で、韓国に亡命後『三階書記室の暗号』という証言録で知られる、太永浩(テヨンホ)氏が、去る2月8日韓国の与党「国民の力」の党員投票で最高委員(5人)の一人に選ばれたことが報道された。太永浩氏はその本の中で、2001年

5月に当時EUの議長であったスウェーデンの首相が北朝鮮を訪問し、金正日と会談した時、核の問題だけでなく、人権問題の改善をしないと世界の仲間に入れないと助言した時、金正日は表面上は相槌(あいづち)を打ちつつ、首相の帰国後外務大臣を呼び、人権問題は核開発で隠せという指示を出したことを、西側に伝えてくれて、とても貴重な情報を伝えて下さった。北朝鮮は三代目の今も、この指示を実行している。南北の統一に生涯を掛ける太永浩氏の活躍を期待したい。

〈新刊紹介〉『だれを私は恐れよう』(ヒヨンス・リム)

(いのちのことば社、1800円+税)相原悦子さんのご紹介

去る2月の始め、仙台在住の会員相原悦子さんから1冊の本が送られてきた。表記の本である。表紙の帯に記されている言葉を見て驚いた。「18年間にわたって150回も北朝鮮を訪問し、人道支援を続けてきた韓国系カナダ人牧師ヒヨンス・リム」とんでも驚いたのは150回も北朝鮮を訪問したという回数である。北朝鮮の子供たちが飢えて死んでいるのにびっくりし、中朝国境で食糧支援をはじめ、のちにカナダに渡り、カナダ国籍を取得し、カナダを本拠地に北の子供支援に募金を集め、それをトウモロコシや小麦粉に変えて、北朝鮮内部に百数十回も行き来して子供たちを主に救ってきた牧師さん。今年齢は80歳前後。顔写真は出ているのであるが、生年が記されていない。お母さんは朝鮮北部出身。彼は韓国で生まれたと思われる。「とんでもない罪名で死刑を言い渡され」の所は直接この本をお読みいただきたい。彼が生きてカナダに戻れたのは、カナダ国籍とカナダ政府、カナダ外務省の働きかけが大きかった。相原悦子さんに感謝し、本会報での紹介の遅れをお詫びしたい。いのちのことば社の連絡先。住所〒164-0001 東京都中野区中野2-1-5 電話03-5341-6920 Fax 03-5341-6921 e-mail support@wlpm.or.jp

二つの北朝鮮人権報告書——韓国統一省のものと、国連人権理事会のサルモン報告者の報告書

最近北朝鮮の人権状況報告書が二つ出されている。一つは昨年8月から就任した北朝鮮人権状況報告官サルモン女史の春期報告書[3月4日(現地時間)国連人権理事会で承認されたもの]。2003年以来21年連続その改善を求める者。今回のテーマは女性と少女の人権侵害の報告である。以下その内容の概略を紹介する。今一つは韓国の統一省が出したものと言われ、2017年以降の脱北者508人の証言を基にしたもので約450頁にわたる大部なものという。編集子は未見なので今回は前者を紹介。

北朝鮮の女性と少女の人権を主題にした サルモン女史の報告書の重点紹介

サルモン女史初めての北朝鮮人権状況報告書は北の女性の状況を主題にしたのは自然である。A4横書き18頁(国連文書記号A/HRC/52/65)から以下その要旨を重点的に指摘する。

〈北の人権状況の概観から〉昨年9月8日北朝鮮は核兵器に関する法律を修正して、攻撃を受けたとき、命令とコントロールシステムが作動しないときは、自動的核攻撃を可能にする核兵器使用法を修正した。

COVID-19 防備の諸制限の人権に与えた影響——① 2022年10月北朝鮮政府は17歳から65歳までの人にワクチンと2服支給。平壤と国境沿いの人々に優先的に支給。北朝鮮は国際的なワクチン支給機構(COVAXfacility)からのワクチンの支給を拒否している。2022年5月中国からワクチンを一部受け入れたが、②2021年末には人口の60%が食糧不足(パンデミック前までは40%)。2019年から2021年までは人工の41.6%が栄養失調。③2000年から軍人への食糧支給が1日620gから580gに減少。④地方の病院は基礎的な薬、麻酔、消毒、ビタミンや水分の点滴用具の不足のため、医療手当てができない。⑤2022年8月北朝鮮当局は薬の提供に関する二つの法律を制定し、不法な薬の製造と販売を厳しく罰することにした。これはマーケット(市場)での不法な薬の売買を厳しく罰する者である。多くの人が市場で売る薬に頼っているのに。⑥2023年1月から地方と都市の病院は緊急な患者、重病患者を退院させている。治療のための燃料の不足のため。⑦患者は薬や医療物資や医療手当ての燃料(油)を持参して病院に来るように言われている。⑧国外からの情報接収を禁止するため、携帯のチェック、外国のビデオ閲覧禁止、韓国の言い回しの禁止(平壤言葉の励行)を行い、知る権利や表現の自由を侵害している。

北朝鮮における女性と少女の人権

〈憲法と国内法で女性と子供の権利は一応保障されている〉1946年の男女平等法、1972年の北朝鮮憲法で職業に就く男女平等や女性や子供たちへの特別な保護などが規定されている。1978年の社会主義労働法、2010年の労働保護法で、妊娠している女性の労働への配慮、夜間労働や長時間労働、休日労働の禁止がなされている。①2021年11月のAssault(Violence)禁止法も制定されているが、この法律は家庭内で起きている、または個人的な関係でなされる女性に対する暴力を防ぐ具体的な規定がなされていない。②1976年の社会主義労働法で

は子供は16歳に達するまで労働は免れると規定(第15条)。公衆衛生法(1980年)、市民法(1990年)、家族法(1990年)で子どもの健康や家族の中での子供の保護が定められ、2014年には12年間の義務教育を政府は打ち出した。③17歳までは結婚できないことも政府は文書の中で公表している(2005年レポート)。

〈特別な権利の状況〉以上一応の女性と子供を守る法律は北朝鮮に存在するが、

条文と実際の適用に大きなギャップが存在する。鍵になる官僚(特に警察官と収容所警備員)に対するトレーニングが必要である。以下実態を指摘する。

〈拘留施設での女性たち〉①北朝鮮から韓国に亡命した人の72%が女性である。彼女たちは中国で人身売買の対象になり、中国人の子供を産み、韓国に亡命した後も、中国に遺した子供を引き取りに行き、同じ辱めを受ける。韓国に亡命した女性の65.2%は慢性の病気、50%は憂鬱の危険、4分の1以上は神経衰弱(PTSD)にかかっている。②中国に脱出し、中国当局に捕まって北朝鮮に送り返されると、教化所(刑務所)に入れられる。また北朝鮮内部で連座制で拘禁施設に収容される。そこでは女子は拘禁所、収容所警備員の性暴力の対象になる。刑期の縮小や収容待遇を少しばかり軽減することの引き換えに性交渉が要求される。拒否すれば待遇は悪くなる。

〈家庭内暴力〉脱北者によれば、家庭内暴力は北社会では広く広がっていて普通である。レイプは法律で禁止されているが、夫のレイプは犯罪視されていない。北朝鮮では多くの女性が性的な攻撃やレイプにさらされている。特に政府の役人(男性)たちによる。彼らは何ら罰せられていない。特別報告官(私)は北朝鮮政府に被害者を守るメカニズムを作成し、このような性暴力をなくすべきであることを強く訴える。

〈市場での女性たちの活躍と性暴力の防止〉

チャンマダン(市場)での女性たちの活躍は目覚ましい。しかし中朝国境の封鎖で彼女たちの商売も大きな影響を受けている。薬の製造や売買も法律で政府は禁止した。彼女たちは取り締まりの役人たちに賄賂を払い、必死に収入を確保せんとしている。北朝鮮政府は家庭の食を支えている市場の彼女たち(the breadwinners)の営業を保障すべきである。

〈編集子の感想〉北朝鮮の女性と少女の人権状況を主題にした特別報告官のサルモン女史の最初の報告書は、北朝鮮内部の女性と少女たちの状況と、生きるために北を脱出した女性たちの人権状況の二つを取り上げねばならず、大変であったと思う。歴代報告者と同じく彼女は北朝鮮内部に入れない。以上の私の報告要旨の紹介は十分にできたとは言えない。只私が行間を読んで感じたのは、北朝鮮の公務員(労働者は皆公務員)の給料が一家を養うに値するほどの給料であるべきだ(家庭の主婦が市場に出て働かなくて済むような給料)と彼女が訴えていることを感じ取ったことである。北朝鮮の男子の給料が一週間以下の食糧にしか値しないのはおかしい。

北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」会報

NO FENCE

vol. 93 2023年5月



〒102-0093 千代田区平河町 1-5-7-203
nofenceinfo@gmail.com
<http://nofence.jp/>

4.28 COI 設立10周年を迎えて記念集会 北朝鮮の人権侵害とその救済策を考える

反人道的な人権被害の記録と保存

去る4月28日衆院第一議員会館国際会議場で表記の催し物があり、NO FENCE も共催団体として宋允復氏と共に参加してきました。発言時間は15分しかありませんでしたので、北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会と韓国の北韓人権市民連合が共同で、北の強制収容所の存在と実態を世界に知らせる季刊誌『生命と人権』を1966年秋から世界700か所(うちアメリカ議会関係者300部)に送る活動をしたこと、1967年から1975年までの間に人権を含む良心的な本をすべての図書館や機関から一掃する「図書整理事業」を北当局が行ったこと、2001年5月金正日が核開発で人権問題を隠せという指示を出したこと(『三階書記室の暗号』)を紹介しました。

2013年3月国連人権理事会は北朝鮮人権状況調査委員会を作り、1年かけて翌年春に報告書を発表。略称 COI 報告書という。今回一部読み返してみたが、知らなかったことが随所にあり、日本語版を活用しなければならないことを再認識した。大部な報告書で日本語版は税込みで8800円、最寄りの図書館に購入してもらい、活用することをお勧めする。

書名『国連北朝鮮人権報告書』ソンユンボク監修 ころから社 8000円+税
ころから社 電話03(5939)7950 〒115-0845 北区赤羽1-19-7-603

上記 COI 報告にも反映されているが、最近身近にあった韓国本、尹与相他著の

『北韓 政治犯収容所の運営体系と人権実態』(2011年刊)を

再度繙いた。いまから12年前の本であるが、最後の運動の進め方の所で重要な指摘がなされていることに気付いた。今後当会の方針に生かすことにしたい。金尚憲氏の発刊の辞に大変感銘を受けたので、ほぼ全文を訳して以下に紹介したい。

金尚憲氏の発刊の辞より

「北韓人権情報センターは、長い間北韓の人権弾圧の実像を調べつつ、とてもやりきれない気持ちでした。事実でないことを願う我々の期待とは違い、北韓の人権の実像は、見るに耐えないほどの酷いものそれ自体であったからです。今この世で一番むごたらしい、即人が人にしてはならない犯罪が、政治犯収容所と拘禁施設で、制度的に十数年間ほしいままに行われており、毎日のように我が同胞たちが残酷に死んでいます。

北韓(北朝鮮のこと)には、強制労働がほしいままに行われる秘密の収容所、即ち政治犯収容所が数十年前からあります。ここは数十万名にいたる罪のない人々が、男女老少を問わず、裁判もなしで引っ張っていかれる所です。また北韓には、各道、市、郡ごとに、拘禁施設があって、そこで蔓延している収監者に対する人権侵害もまた残酷だという驚くべき事実が明らかになっています。毎日毎日収監者たちが拷問と苛酷な行為にさいなまれ、飢えと病気で集団死しており、強制労働に苦しんでいます。このような現実、北韓が一つの政府ではない犯罪集団であるほかありません。

ところでより心が痛い現実があります。それはまさしく我々の眼前で我々の同胞たちが拷問と苛酷な行為に苦しんでいるにも拘わらず、これに対してほとんど関心すらない南韓社会の情緒です。この点は外国人の人権活動家たちが、大変いぶかしくかんがえている点でもあります。なぜこのようになってしまっているのか？ 私が個人的に長く煩悶した末に下した結論は、過去の間違った反共教育と我々は何もすることができないという敗北主義がその原因であるのではないかということです。その理由は以下の如くです。

〈反共の虚像〉

私たちは共産主義に反対です。私たちは同じく、腐敗、言論弾圧、自由の抑圧、不正選挙、拷問行為、軍人たちの反乱行為などに反対です。しかし過去の盲目的な反共宣伝は、反共のためであれば別の犯罪を犯してもよいという幻想を韓国社会に深く植え付けてしまいました。軍人たちの反乱も仕方ない、不正選挙も仕方ない、反共の程度である民主主義を退けても、一重に反共を叫べばよろしいという幻想です。甚だしくは反共という名で共産主義を実践してもよいことになりました。維

新制度がまさしくその実例の一つです。火で火を消そうという幻想が大韓民国を長い間患わせてきました。このような盲目的な反共宣伝は多くの人々に幻滅を感じさせ、このような現実は今北韓の現実を直視するのに大きく妨げとなっています。

共産主義に対する最大の武器は真実を知らせることです。政治的な宣伝ではありません。ドイツは長い間東西ドイツに分かれていました。共産治下の東ドイツがどんな国家であるかは全世界が知っていました。これに対して西ドイツは強いて悪宣伝をしませんでした。今日陽(ひ)が西の山に沈むという真実を騒ぎ立てて言う必要はなかったということと同じです。むしろ西ドイツは自由に東ドイツを観察し研究することが出来ました。真実の道を遮らないことが最善の反共の道であるからでした。結局ドイツは統一し、共産主義の威脅(おどし)を完全に克服しました。

反面南韓は北韓の実状を知る道を遮断し、これを犯したときは処罰をしました。その結果北韓の真実が暴露されることが遮られました。北韓を自由に研究することができていたら、南韓に主思派学生団体は決して発生しなかったでしょう。むしろ北韓の労働新聞と人民日報のような刊行物を誰でも自由に読むことが出来、北韓の放送を自由に聴いてみることもできたなら、北韓の実状を暴露するいい方法であったことでしょう。しかし南韓は今もこの道を阻んでいます。したがって南韓の国民たちは反共団体に不信を抱くようになり、北韓の人権に対する告発を過去の悪宣伝の延長として見て、耳を傾けようとしなくなってしまいました。

過去の反共の行動形態が政治的な目的のための故意の政策であったとしたら、それはまさしく国家と民族にたいする犯罪行為であり、万一知らないであったのなら、愚かさの極致であったとということができるでしょう。今からでもこれに対して深く反省し、北韓人権の惨状を直視するに大きく寄与しなければならないでしょう。過去の狂信的な反共主義者たちは、今からでも深く反省しなければならないでしょう。

〈南韓國民の敗北主義〉

今や帝国主義の時代は克服され、民主主義と人権の時代です。人類の長い夢が実現されつつあります。遂にあらゆる人権国際協約はあらゆる国家の憲法と国内法の上位法として位置を占めています。その間コソボ事態、東チモール事態、チリの軍事独裁者ピノチェト大統領の失脚、現在進行しているカンボジャのポルポト残党に対する峻厳な国際裁判、国際刑事裁判所の発足と活動、カダフィーに対する国際刑事裁判所の逮捕令状発布など、人権の重要性と現実的な力が確認されています。

世界的な連帯を通して北韓を十分に制圧することのできる現実的な方法と手段がはっきりとあります。それにも拘わらず南韓社会はこのような人類歴史の変化

と人類の良心の力を理解しないで(悟らないで)います。これは過去の大院君時代を連想させます。2018年度の冬季オリンピックを平昌に誘致する努力の十分の一の力だけでも、いくらでも北韓の犯罪行為を中断できる方法があるにも拘わらず、「我々に何ができるのか？」という時代錯誤と敗北感から抜け出すことができないでいます。数多くの私たちの兄弟姉妹が極悪非道な金正日集団の虐待に、まさにこの瞬間にも苦しんでいる、この恐るべき現実の前に、このように無力であることができるでしょうか？恥かしいです。

.....

国内外で北韓の政治犯収容所に対する関心が高まっており、北韓当局に断固として政治犯収容所で行われている苛酷な人権侵害を中断することを要求するとき、少しずつでも人権が改善されるでしょう。私たちの関心と努力が今苦痛の中でも希望の綱を手放さないでいる北韓の同胞たちに大きな光として射していくことでしょう。

(2011年7月15日)

〈前号訂正〉 仙台の相原悦子さんから電話がありました。『だれを私は恐れよう』の著者ヒョンス・リムさんは1955年2月16日生まれで現在68歳です。昨年(来日)来日されました。ネットでヒョンス・リムと入れると動画が出てきます。出版社のいのちのことば社が作った動画です。

「国民の力」の最高委員は5名でなく4名でした。

北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」会報

NO FENCE

vol. 94 2023年5月



〒102-0093 千代田区平河町 1-5-7-203
nofenceinfo@gmail.com
<http://nofence.jp/>

オンライン講演会ご案内、 目次のご案内 お許しを!

5月27日(土)13:30~16:00 Zoom

“世界は北朝鮮に、人権意識をうえられるか?”

講師 村主道美氏(学習院大学教授)

古代専制的な発想を国家の背骨としているように見える北朝鮮は、その地理的利点からくる米中露韓等との関係を利用しながら、核兵器開発と人権侵害を持続、深化させているが、外の世界はどのように制裁の方法と目標を選択しながら、政治犯収容所問題をはじめとする非軍事的問題についての北朝鮮の立場を、揺さぶることが出来るか。過去の経験は何かを教えてくれるか。

- ◆Zoomによるオンライン開催
- ◆参加無料
- ◆日本語のみ

総会の Zoom の URL は、

<https://qr.paps.jp/O9E0B>

以下のフォームから参加登録をしてください。
後日、Zoom の URL をメールでお送りします。

<https://forms.gle/S8nq2Jq8QQz8vAFc9>

主催: NO FENCE(北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会)

<http://nofence.jp/>

以下の資料は会長の山元泰生氏が提供した以下の一部です

北朝鮮が党中央軍事委拡大会議 金正恩氏 「戦争抑止力の拡大」強調

北朝鮮 2023.04.11 09:26

【ソウル聯合ニュース】北朝鮮の朝鮮中央通信は11日、朝鮮労働党中央軍事委員会第8期第6回拡大会議が前日開かれたと報じた。会議は金正恩（キム・ジョンウン）国務委員長（党総書記）が主宰した。同通信は、金氏が会議で「日を追うごとに深刻になっている朝鮮半島の安全状況をさらに厳格に統制し管理するための対策として、加速度的に強化されている戦争抑止力をさらに実用的かつ攻勢的に拡大し、効果的に運用する必要性について強調した」と伝えた。

金氏が言及した戦争抑止力は「核武力」を意味するとみられる。

同通信は会議について「米帝と南朝鮮の傀儡（かいらい）逆賊の侵略的な軍事政策と行為が脅威的な実体として浮上している朝鮮半島の安全状況の厳しさをはっきりと認識するとともに、それに対処し、国の防衛力と戦争準備体制の完備に向けた重要な軍事問題を討議した」と説明した。

以下の資料は宋允模氏の提供です。

「北朝鮮の人道犯罪は今も続く」NGO 幹部の懸念

改善の機運を失速させた米韓の責任

朝日新聞 Globe+ 北朝鮮インテリジェンス 2023.05.15

「北朝鮮における人権に関する国連調査委員会」（COI）は3月、設置から10年の節目を迎えた。COIは2014年に発表した最終報告書で、北朝鮮による人権侵害を「人道に反する罪」と指摘し、金正恩総書記ら北朝鮮高位層の刑事責任を問うべきだとしたが、「北朝鮮による人道犯罪は今も続いている」と、米NGO「北朝鮮人権委員会」のグレッグ・スカラトウ事務総長は訴える。いったいどういうことなのか。スカラトウ氏に聞いた。（ワシントン＝牧野愛博）

――この10年間、北朝鮮の人権問題で進展があったのでしょうか。

COIの報告書が推奨した結果、国連人権高等弁務官事務所のソウル事務所が設けられました。北朝鮮は障害者権利条約にも参加しました。障害者の権利に関する国連関係者が訪朝しましたが、アクセスが非常に限られていました。北朝鮮は国連の北朝鮮人権状況特別報告者の受け入れも拒んでいます。

過去10年間、北朝鮮の全体的な人権状況は改善されず、人道に対する罪が依然続いています。政治犯収容所の状況は、特に新型コロナウイルス禍ではひどいものです。北朝鮮当局は移動を禁止し、外界からの情報や市場活動を取り締まっています。家で料理をつくり、路上で売っていた人々まで取り締まっています。

北朝鮮の人権問題について共同声明を発表した有志 31 カ国の国連大使ら。日本の石兼国連大使（右から 3 人目）も参加した

北朝鮮の人権問題について共同声明を発表した有志 31 カ国の国連大使ら。日本の石兼国連大使（右から 3 人目）も参加した=2022 年 12 月、アメリカ・ニューヨーク、遠田寛生撮影
COI の報告書によって、北朝鮮の人権問題に対する機運が盛り上がりましたが、失速しました。主に二つの理由があると思います。

まず、トランプ前米大統領による米朝首脳外交です。米朝交渉のなかで、人権問題は取り上げられませんでした。トランプ大統領の新しい試み（首脳外交）を批判する気はありませんが、人権問題を交渉の犠牲にすることは間違いだと思います。

第 2 に、北朝鮮を懐柔しようとした韓国の文在寅政権の責任があります。文政権当時、韓国は北朝鮮を巡る国連人権決議の共同提案国になりませんでした。北朝鮮人権問題への取り組みは、保守、進歩（革新）のどちらの政権であろうと、一貫して継続されるべきです。

COI 報告書による勧告の多くは実施されていません。COI は、国連安全保障理事会が北朝鮮の人権問題を国際刑事裁判所（ICC）に付託するよう勧告しました。ルワンダやユーゴスラビアのケースで設立された特別法廷というやり方もありますが、どちらも安全保障理事会の決議が必要になります。中国にも、脱北者の強制送還を停止するよう求めています、中国の態度は変わっていません。勧告を実施するための行動が不足していると思います。

——金正恩総書記の責任についてどう考えますか。

金正恩氏は、北朝鮮で起きている全ての問題に責任があります。彼はシステムの最上位にいます。彼は有罪です。

彼も父も祖父も民主的に選出されたわけではありません。金正恩氏が権力の座にあるのは、父の息子であり、祖父の孫だからです。ロイヤルファミリーと朝鮮労働党の究極の戦略目標は、政権の存続です。

そのために、核兵器やミサイルを次々開発しているのです。彼らは国内外で自国民を抑圧し、搾取します。正恩氏はこの泥棒政治国家の究極の受益者です。だから彼には間違いなく責任があります。

彼はスイスで勉強したので、北朝鮮の政治体制の改革を期待する声もありました。彼は外の世界を知っています。しかし、外国人を知っていても、外国人が好きというわけではありません。カンボジア人虐殺の首謀者だったポル・ポトもフランスに留学していましたから。

金正恩氏が選ばれたのは、彼が改革者になる可能性が高かったからではありません。彼が選ばれたのは、彼が父から最も信頼されていた一人の息子だったからです。彼ができるだけ早く支持基盤を作るためという理由で、多くの人々が家族や仲間と一緒に粛清され、逮捕され、拷問され、殺されました。

韓国の情報機関によると、息子のほか、キムジュエ氏とは別の娘もいる可能性があります。キムジュエは本名でない可能性もありますが、金正恩氏は、強固なロイヤルファミリーの姿を示し、次世代への継承を宣言しているのだと思います。

また、金正恩氏は27歳で国を継承しなければなりませんでした。権力継承のための準備はたった3年間しかありませんでした。正恩氏は、彼の子供たちに同じ事が起きないようにしたいから、早い段階から準備するつもりなのでしょう。

——北朝鮮の最近の状況について何か聞いていますか。

コロナで多くの外交官や国際組織職員が北朝鮮を去りました。以前よりもはるかに少ない情報しかありません。まだ残っているいくつかの情報源は、「悲惨な状態だ」と訴えています。教化、抑圧、強制、統制、監視、刑罰の危険にさらされています。ボトムアップからの政権交代は不可能です。

北朝鮮市民は、統治システムがどのように機能しているのかわかりません。平壤以外の人々には関係がありません。軍と党の間に緊張はないと思います。軍は党に属しています。党の軍隊です。過去、何度か軍事蜂起が試みられた可能性が非常に高いですが、失敗に終わりました。

権力と特権は首都平壤に集中しています。非常に厳しい監視のために、人々が組織化したり、北朝鮮の政治的変化について考えたりすることは非常に困難です。政権の監視がありますし、悲惨な経済・人道的状況の下では、革命ではなく、本人と家族の生存について考えるしかないのです。

政治犯収容所にいる人々は10年前、約12万人と言われていました。しかし、政治弾圧が強まり、現在は20万人という数字の方が現実に近いと思います。

——米朝対話が始まる可能性はあるでしょうか。

バイデン政権は外交の機会が常に開かれているというメッセージを送りました。外交が進むかどうかは、基本的には北朝鮮次第だと思います。

米朝対話にかかわらず、北朝鮮は核・ミサイル開発を続けます。対話がない状態であれば、北朝鮮は公然と行います。対話局面では、開発の事実を少し隠すかもしれませんが、継続します。

北朝鮮がミサイル実験を続ける明らかな理由は、開発プログラムをテストする必要があるからです。新型コロナの影響で、北朝鮮経済は苦しい状況に追い込まれています。一方で、北朝鮮はイランなどに兵器の顧客を持っています。ミサイル実験を行い、北朝鮮が健在で、商品を生産できることを顧客に示したいのでしょう。

また、韓国と米国に圧力をかけたいと思っています。米韓同盟だけではなく、日米同盟にも圧力をかけたいのかもしれませんが。

2019年2月の米朝首脳会談で金正恩氏は大失敗したと思います。その責任は随行者たちにあると考え、ハノイから平壤に戻る車中、随行者たちは、壁に向かってひざまずいて手を上げるように強制され、金正恩氏に謝罪するように求められたと聞きました。それだけ、金正恩氏にとって強烈な体験だったのです。正恩氏が米国とは別の国の首脳と会談を検討することには非常に消極的だと思います。

合意が可能な状況でもありません。私たちが望むのは、完全で検証可能、不可逆的な非核化（CVID）です。

北朝鮮が望んでいるのは、核保有国としての承認です。金正恩氏は核兵器を握っています。今、北朝鮮は米国によって認められ、外交関係を持ち、核保有国になることを目指しています。米朝双方の主張が大きく食い違っているため、交渉は簡単ではないでしょう。

ソウルからヨボセヨ

ロンドンから来た平壤の女

産経新聞 2023/2/25 黒田 勝弘

コラムの見出しは最近、韓国で出版された元北朝鮮外交官夫人の回顧録の題名である。著者は北の元駐英公使で現在、韓国で国会議員をしている太永浩（テヨンホ）氏の夫人の呉惠善（オヘソン）さん（55）。一家は子供2人を連れて2016年、韓国に亡命。夫の回顧録はすでに出版されているが、今回の夫人の回顧録は過去の脱北者たちが伝えるような餓死者など貧しい話ではなく、特権階級の日常生活が詳しく紹介され話題になっている。

夫人は生まれが金日成（キムイルソン）主席の同志グループの家系という最高の特権層で、平壤外国語大学を卒業後、貿易業務や大使館勤務などエリートコースを経験してきた。平壤では自家用車でエステに通い、お金はもっぱらドル払いでショッピングは日本製など外国モノ。とくに学校での子供の成績や病院での治療を含め、ほとんどがドルを渡せばどうにでもなるというワイロ社会の実態が興味深い。

ただ特権層でも肅清によってある日、突然姿を消す“恐怖社会”でもある。北朝鮮のナンバー2だった金永南（ヨンナム）・最高人民会議前常任委員長宅の嫁になった美貌の知人は離

婚後、収容所に送られ骨と皮だけになっていたという秘話も登場する。著者が亡命に踏み切ったのは、長い外国生活での“自由、体験と病気持ちの長男など子供の将来を考えたため”という。(黒田勝弘)

正恩氏批判し人体実験場へ 韓国、北人権報告書を初公開

コロナ禍で越境者射殺 乏しい拉致被害者情報

世界日報 2023年4月4日

韓国政府はこのほど北朝鮮の人権侵害事例をまとめた報告書を初めて公開した。目を引くのは公開処刑や人体実験など生命権が踏みにじられるケースが依然として続いていること。全土が巨大な収容所とも言える劣悪な実態は、改めて国際社会から指弾を受けそうだ。(ソウル・上田勇実)

報告書は、韓国に入国した脱北者508人が経験した北朝鮮における人権侵害事例に関する聞き取り調査に基づき作成された。2017年以降の6年間に陳述した内容のため、比較的最近の実態が反映されたと言える。韓国定着の脱北者は女性が7割以上を占めるが、508人の男女比はほぼ等しく、出身地域は中国との国境沿いに位置する両江道が約60%で圧倒的に多かった一方、首都・平壤出身も約11%に達し、極端な地域傾向を排除するものとなっている。

16年制定の北朝鮮人権法に基づき作成が始まったが、北朝鮮に迎合する文在寅政権下では一般公開が控えられ、北朝鮮に毅然(きぜん)とした態度で臨む尹錫悦政権の発足を機に公開されたとみられる。

報告書によると、20年以降の新型コロナウイルス感染拡大を受け、中朝国境封鎖措置が敷かれた中、越境しようとした者を警告なしに即時射殺せよという当局の方針が住民や国境警備隊に広く通知され、実際に射殺された住民もいたという。住民の国境往来に伴うコロナ感染拡大を恐れたためとはいえ、極端な人権侵害だ。

公開処刑に関する証言では、17年にある妊婦が自宅で踊る動画が外部に出回った際、その妊婦が金日成主席の肖像画を指さしたことが問題視され、思想的に不穏だという理由で公開処刑されたという。また18年には北東部の清津市で迷信・宗教に関わったという理由で18歳未満の未成年1人を含む2人が公開処刑された。「18歳未満と妊婦は死刑にできない」と明記した国内法(刑法)を無視する無謀な人権侵害行為だ。

人体実験に関する証言もある。北朝鮮では統合失調症などの精神疾患や知的障害のある人は「83号病院」「83号管理所」と呼ばれる精神病院に入院させられるが、そこでは人体実験が行われているという。

19年、北東部の咸鏡北道にある「49号病院」と呼ばれる地域の精神病院に「収容」されていた患者が、金正恩総書記の悪口を言いふらしていたことが原因で「83号」に移送され、人体実験の対象者になったという。

かつて国際司法裁判所の元判事をして「ナチスドイツによるアウシュビッツ収容所よりおぞましい」と言わせしめた北朝鮮の政治犯収容所についても証言が相次いだ。

まず収容所に強制収監させられる理由としては「3代世襲を批判し、指導者は交代し続けるべきだと言った」、「酒席で金日成・金正日政治は人民のためになっていないと言った」、「帰国事業で北朝鮮に渡った元在日朝鮮人の家族が体制批判した」などがあったという。

スパイ罪で収容所に送られるケースもあり、中には韓国側と生き別れになった離散家族を探し出そうとして「(韓国情報機関の) 国家情報院のスパイとして働いた」という嫌疑をかけられた事例もあったという。

平安南道价川市にある「14号」と呼ばれる収容所は、処刑された金総書記の叔父、張成沢氏と「関連した者を収容する目的」で市内にある「18号」収容所の地域まで拡張されたという陳述もあったという。

北核実験場の周辺数十万人に危険性 初の報告書、日本に影響も
産経新聞 2023/2/21

【ソウル＝桜井紀雄】北朝鮮が北東部の豊溪里(ブンゲリ)で6回にわたる核実験を重ねた結果、周辺地域の住民数十万人が、放射性物質の実験場からの流出や地下水を通じた拡散で危険にさらされているとする分析を盛り込んだ報告書を国際人権調査団体が21日、発表した。

豊溪里での放射性物質拡散の危険性は繰り返し指摘されてきたが、北朝鮮は正確なデータを公開しておらず、核実験の周辺地域への影響を多角的に分析した内容の公表は初めてとなる。

報告書は、周辺で採取されて中国に輸出されたマツタケなどの農水産物が中国産を装って日本や韓国に密輸されることによる危険性にも警鐘を鳴らしている。

発表したのは、韓国を拠点にした団体「転換期正義ワーキンググループ」。団体が韓国国会などを通じて入手した資料によると、韓国政府は2017年の6回目の核実験を受けて17年と18年の2回にわたり、豊溪里周辺出身で韓国に住む脱北者40人に被曝(ひばく)

検査を実施。うち22・5%に当たる9人から多数の染色体の異常や279～1386ミリシーベルトという高い放射線量が検出された。

18年に限ると、検査した10人の50%に当たる5人から異常が見つかった。検査を受けたのは16年より前に脱北した人が多く、規模がより大きい16～17年の5回目や6回目の核実験後も周辺に暮らす住民は、さらに顕著な数値が検出される可能性がある。

別の団体による周辺地域出身の脱北者への聞き取り調査では、頭痛や嗅覚・味覚の鈍化、視力低下、心臓の痛みなどを訴える人が複数いた。地域では原因不明の病が広がっているとの話が絶えなかったという。

報告書は、北朝鮮が過去に国連に提出した資料から、地下水や河川によって放射性物質の拡散の影響があり得る周辺の8市・郡に住む人口を約108万人と算出。韓国政府の被曝検査で異常が見つかった住民の割合などを考慮し、実際に影響がある住民を25～50%と仮定した場合、約27万～54万人が放射性物質拡散の危険にさらされている可能性があると分析している。

実験場付近には3万人近くを収監した政治犯収容所があり、収容者の被曝の危険は一層高いとみている。

周辺の山林はマツタケの産地でもあり、報告書は、中国を經由して中国産として日本に輸出されている可能性にも言及。韓国では15年に北朝鮮から中国産を装って輸入されたキノコから基準値の9倍以上の放射性物質が検出された。

団体の李永煥（イ・ヨンファン）代表は「核実験という安全保障問題と人々の生命や健康という人権問題が関連していることを示している」と指摘。韓国政府に早急に本格調査に乗り出すよう求めている。

〈ご連絡〉5月31日に予定されていた帰国事業裁判東京高裁判決は、裁判官が交代したので変更になり、7月7日（金）14時から高裁101号法廷で口頭弁論が開かれることになったという連絡が本日入りました。

〈NO FENCE 事務局から〉例年ですと年度初めの総会が開かれているべきですが、事務局と世話人会の準備不足により、今年度はまだ開催できていません。今年度は、昨年度の活動報告、会計報告、新年度の活動方針案を文書で会員の皆様にお送りし、ハガキを同封してハガキで総意をお諮りして、総会に代えたいと思います。6月中に文書による総会を行いたいと考えます。ご了承ください（代表 小川晴久）。

北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」会報

NO FENCE

vol. 95 2023年 6月

〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203
nofenceinfo@gmail.com
<http://nofence.jp/>




5.27 村主道美氏オンライン講演会報告

「北朝鮮に人権を植えることは可能か？」

去る5月27日午後、NO FENCE 主催で、会員でもある学習院大学法学部の村主道美教授にオンライン講演をお願いした。事前に400字詰80枚の原稿を用意され、画面に提示したそれを読みながらのご講演であった。ご講演は、北朝鮮が全く人権のない国であることを大前提にして、北朝鮮当局の国家統治の特徴点、どういう方法で人権のない状態を作り上げ、維持しているのか(国際社会の関わりも含め)、この状況をどうぶち破っていったらよいかの提言の順で展開された。以下に極めて重点的にその内容をご紹介します。

一、北朝鮮当局の統治観とその特徴

- ① 北朝鮮当局は「国民」という観念を許さず、「人民」概念で統治する。普通の国では国民という観念がつかわれ、国民意識というものが云々できるが、人民と  という用語が使用される北朝鮮では「人民意識」というものは成立しない(用語としても成立しない)。多様性が保証されない。
- ② 北朝鮮社会に平等はない。核心階層、動揺階層、敵対階層の3区分があり(51成分分類)、厳然たる差別がある。
- ③ 当局は人民の裕福さを望んでいない。むしろ貧しさを維持している。
- ④ 当局は人民が他国民の状況を知ることが望んでおらず、禁止する。
- ⑤ 当局は体制を変えようとする者を憎悪することを構成員に求めている。

二、「無人権」国維持の方法

(一)中国古代の商鞅の法家的「一元化」政策の活用

現在の北朝鮮の全体主義的状況がどのような手段で維持されているかは、一党支配、秘密警察、強制収容所の三つの手段で維持されていると考えて、私たちは NO FENCE 活動をしているが、村主教授は今回新たに二つの方法を指摘され、私たちの注目を引いた。一つは中国古代の戦国時代の秦の商鞅の富国強兵策、今一つはこの後で示す「Rentier State」である。

戦国七雄が割拠していた4世紀、商鞅は富国強兵策を打ち出し、民に農業生産と戦場での戦功の両方を要求し、賞罰を徹底して、奴隷状態から良民に民を引き上げて行った。三族連座制も採用。こうして秦は130年後の BC221年始皇帝によって全国を統一する。村主教授は商鞅の政策から、(1)賞罰の一元化、(2)以弱攻強(以弱去強)、(3)「壹教」(一つの教えだけでよい)、(4)「以奸馭良」(良い者を悪い者が操れば王は安泰)に注目された。村主教授は現代中国の上海開放大学教授鮑鵬山氏の「商鞅と商君書」というネット講義からヒントを受けたという。鮑鵬山氏は商鞅の著書『商君書』は中国歴代の専制君主が最も依拠した法典で、上記した(1)から(4)までの政策を実行したという。私(小川)は学生時代東洋史学科に在籍していたが、その時には『商君書』が専制君主の法典であるという指摘は耳にしたことがなかった。所持している『商君書』(1974年中華書局出版)の解説を見ても、商鞅の評価は高い。この半世紀の間に『商君書』の評価は180度も変わっていることに、今回の村主講演で気付かされた。

(二)「Rentier State」(不労所得生活国家)

村主教授は北朝鮮も、自国の豊富な資源を売ってそれだけで食べている産油国などの国家「Rentier State」(不労所得生活国家)と同じであると指摘された。確かに北朝鮮は山岳地帯が多く、そこに石炭やレア・メタルなど貴重な鉱産資源を持ち、それを外貨に換え重要な財源にしている。Rentier State は近年政治学で注目されている概念であるという。極端に言えば国民がいなくてもなりたつ国家であるという。しかし北朝鮮は石炭を強制収容所の囚人たちに掘らせている。北朝鮮は自国民の生活を向上させる意思はなく、貧乏なままでよいと考えるから、数十年も続く今の北朝鮮の核心階層にとっては不労所得生活国家そのもので、それでいいと考えていると言える。優秀な自国民は必要ないと言える。鉱産資源さえあればよい。

(三) 周辺国の現状維持志向

なぜ人権のない北朝鮮が数十年も継続しているのかの理由を解明されている村主教授は、上記の分析のほかに、周辺国が朝鮮半島の状況の現状維持を願っている。北朝鮮の人権改善をねがって活動している我々には考えにくい指摘である。

三、現状をいかに打破するか

「保護する責任」の実践 2006年に国連に新しいドクトリン「保護する責任」が実現した。その国の当事者が自国民の保護に責任を持つが、それを果たしていないときは、周辺国がその国の国民を保護する責任があるというものである。内政干渉の権利という新しいドクトリンである。カナダの外務省が率先して国連に提起して実現した。2021年ミャンマーで軍がクーデターを起こしたとき、学生たちは世界に向かってこの「保護する責任」の実行を呼びかけたが、のちにプーチンのウクライナ侵攻が始まり、ミャンマーの学生たちの声は消されてしまった。この新しいドクトリンの存在と実行を忘れてはならない。Responsibility to protect は「RtoP」「R2P」と表記される。「中国人に訴える」村主教授は中国人に対して、中国に対して、15項目の問いを発している。中朝国境を脱出して中国に避難した脱北民を依然として北朝鮮に送り返すのか？中国国内で脱北民がキャンプを作って生活することを許さないのか？中国国内で脱北民や中国人が北朝鮮当局の政策を批判する自由を認めないのか？村主教授は15項目を挙げた後次のように締めくくる。

「かつての(アヘン条約後の)屈辱から再生したはずの中国が、隣の北朝鮮の奴隷制の一端を支えている状態、毛沢東の死後、毛沢東の時代を世襲により続けようとしている北朝鮮に救いの手をさしのべる中国にたいして、国辱を感じないのか、そのような中国であって中国国民から支持されるのか、という質問を、あらゆる機会を利用して中国と中国国民になげかけるべきである。」と。

現状を打開すべき提言として編集子(小川)は以上の二つに絞って村主講演の報告に変える。

NO FENCE の会員の皆さん！中国に友人を持つ皆さん！今まで NO FENCE としても実践の弱かった「中国人に訴える」を少しでも実践しようではありませんか！今回の村主講演の以上のご報告は、多分に編集子の関心に根差した報告になりました。村主教授のご理解とお許しを乞う次第です。(文責 小川 晴久)

上記村主先生の「中国人に訴える」に関連して、最近入手した韓国の NGO[北朝鮮の人権 第3の道]の金尚憲先生の提言から関連箇所を紹介する。

iii. 中国政府による脱北同胞強制送還反対活動を展開する

中国政府の強制送還中止は、国連の北朝鮮に対するどの制裁よりも強力であることを先ず注目しなければならない。

「すべての人は自分の国を自由に出入りでき、迫害を避けて他の国で避難所を享受する権利を有する」という世界人権宣言第13条と14条に基づいて、すべての国際人権協約は強制送還を厳しく禁止している。この強制送還禁止規則は、すべての人権条約に含まれており、難民の地位の有無とは無関係である。その間、これに反対

した国家が一つもなかったため、この強制送還禁止条項は今はずでに国際社会の強制規範 (jus cogen) になっている。

にもかかわらず、中国政府だけが脱北者は難民ではないというとんでもない口実を掲げ、脱北同胞を強制送還している。それこそ話にならない、犬も笑

恥ずかしいことに、韓国市民が私たちは静かだったので、国際市民も静かだった。

UNHCRへの圧力 (国連難民高等弁務官事務所)

巨大な組織 UNHCR は、国際難民保護本部として国連の難民保護の正式な機関です。1953年創設以来、世界各地で数千万人の難民保護のために輝く活動をしており、ノーベル平和賞を受賞した。

UNHCRと中国政府との基本合意書は、

UNHCRが中国で自由な難民救援活動を行うことができるように保障している。

それにもかかわらず、UNHCRは中国政府による北朝鮮同胞強制送還に関して UNHCRの権限と責任を果たしていない。私たちが静かだったからだ。人権問題で先頭に立つ政府はない。この問題は当然、国際市民の役割だ。

UNHCRは脱北同胞は難民であることをすでに認めている。それでも中国政府が反対するという口実で、中国で UNHCRの責任と義務を果たしていない。

それだけでなく、この基本合意書は第 XIV 章で UNHCR と中国政府間の合意が成立しない場合、中国政府、UNHCR そして国連がそれぞれ一人ずつ指名する 3 人仲裁団を直ちに構成し、UNHCR と中国の両当事者はこの 3 人仲裁団の最終判決に無条件従うよう明文規定している。

V. 中国共産党政府の偽善暴露を

近代史は中国の後進性を見せている。中国の近代化の過程で、中国共産党は中国が後進の野蛮国家ではないことを強調しなければならない心理的負担を示している。

2001年6月11日、中国政府が国連に提出した報告書によると

「国際人権協約は中華人民共和国で法的に有効であり、中国はすべての人権法の義務条項を遵守している…」..中国国内法と国際人権法が矛盾する場合、国際法が中国法の上位法であることを認めます。」と言いました。

2001年12月12日難民保護協約記念国際会議で中国代表中華人民共和国王光野外務省次官は「難民保護協約は暗黒の中で迷っている助けない難民には希望のろうそくで…… 難民を支援する人道活動家にとっては、一つの指針です。」と国際人権協約に対して積極的に支持する姿を見せた。」

「このように、韓国には脱北同胞強制召喚を中国政府に強く抗議できる十分な根拠があるにもかかわらず、韓国官僚と市民は「脱北同胞は中国で中国法を破ったのだから仕方ない」という前近代的思考に閉じ込められている。なんて恥ずかしいことだろう？ 朝鮮王朝末期の愚昧さの繰り返しではないか、とても恥ずかしい。」

以上『北朝鮮の人権問題、何か間違っているのか？』(時報社 私家版)より。原典『韓国現代史と人権』(ハルビン版)